

THE SHINGASHI BASIN NEWS

新河岸川流域しんぶん



発行●新河岸川流域川づくり連絡会 新所沢事務所
 住所●埼玉県所沢市勢生町2996-6 山口ビル1F TEL/FAX 042-994-3212
 発行日●2001年(平成13年) 7月30日

VOL. 12

いよいよ川まつり！直前 特集

- P1 川あそび・川まつりへ出かけよう！
 P2-3 新河岸川流域 市民活動報告

新河岸川流域情報

- P4-5 新河岸川流域紀行 歩く見る聞く
 P6 柳瀬川流域水循環シンポジウム開催レポート
 P7 新河岸川流域川づくり連絡会報告
 P8 「里川しんぶん」情報大募集！
 新所沢事務所通信
 事務局から



切絵 毛利将範

川あそび・川まつりへ出かけよう！

川あそび・川まつり 開催日程表

川あそび・川まつり	日 時	会 場
柳瀬川川まつり2001	7月28日(土) 9時~12時	志木中学校前の柳瀬川 東武東上線柳瀬川駅下車
北山わんぱく夏まつり	8月5日(日) 10時~16時	北山公園・北川 西武新宿線東村山駅下車
大森の池まつり	8月19日(日) 10時~15時	大森調節池(入間市宮寺) 西武池袋線柳瀬武蔵藤沢駅 市内循環バス(B51)やまゆり荘下車
白子川ウォッチング	8月25日(土) 9時30分~15時	西武池袋線大泉学園駅 南口集合
黒目川川まつり2001	8月26日(日) 10時~15時	朝霞第三中学校横の黒目川 JR武蔵野線北朝霞駅下車 東武東上線朝霞台駅

いよいよ、川あそびの季節がやってきました。新河岸川流域では各地でイベントが開催されます。普段は入ることのできない川にも、多くの人が集まり、子どもはもちろん、大人も「ミズガキ」になって遊べる絶好の機会です。川あそびを通じて、身近な川を考える機会となってほしいです。

イベントに関するお問い合わせは
 新河岸川流域 新所沢事務所
 TEL/FAX 042-994-3212

次号で各流域の川あそびを報告します。お楽しみに。

新河岸川流域 市民活動 報告

みんなでつくる流域 みんなで支える流域



不老川流域

不老川流域川づくり市民の会 キツネノカミソリ移植作業

不老川の左岸には貴重なキツネノカミソリが生育しています。護岸工事が行われて、2年前より保護されていたキツネノカミソリが4月に元の場所へ再び移植されました。移植地には看板も建てられました。



写真上：看板を立てる作業中

5月19日 樹の名付けウォークキング
入間公民館から入間市明ノ沢までのエノキ、ムクノキ、マユミ等の15本の

樹に名札が付けられました。今後も上流、下流の樹に付けられる予定です。



右：樹に登って、名札を付けています

砂川堀流域

『砂川にホタルのせせらぎをとりもどす』ワークショップ 主催：砂川流域ネットワーク

一昨年の夏に確認された砂川堀のホタルを保全するために『砂川にホタルのせせらぎをとりもどす』ワークショップが開催されました。6月9日(土)に砂川堀の清掃が行われホタルの幼虫に気を配りながらも、大量のゴミが回収されました。7月14日(土)には「ホタルの学習会と観察会」が行われ、十匹以上のホタル(ハイケボタル)の生息が確認

されました。今年は、ホタルの飛んでいる姿が何匹か確認でき、とてもきれいな水とは言えませんが、上流部には河畔林が多く、街灯も少ないホタルのすめる環境が僅かに残っているのです。そういった環境を守りつつ、水質をきれいにする努力を続けてほしいです。



写真上：ホタルの学習会

柳瀬川流域

5月26日 かつばウォーク、海へ到着！

かつばウォークが、ついに海へ到達しました。門前仲町から大川端、佃島、勝間橋経由で日の出橋までの約6キロを歩き、だんだん海が近づきはじめてことが町並みや生き物からも伺えました。佃島では佃煮を購入し、築地市場の横を通り、浜森宮と首都高速都心環状線に挟まれた道を抜けると、いよいよ海です。日の出橋でゴールの記念写真を撮影



写真上：かつばウォークゴールの記念写真

し、そこから水上バスで浅草へ。川は海につながっていましたが、1本の川にも、様々な風景と問題があることが分かったと思います。

7月14-15日 川の日ワークショップ

全国の川に関する活動の中から、「いい川」「いい川づくり」の各部門のグランプリが選ばれる『第4回川の日ワークショップ』が行われ、新河岸川流域からは清瀬せせらぎ公園での取組みが発表されました。グループ審査では代表に選ばれましたが、残念ながら入賞とはなりませんでしたが、川の日ワークショップホームページ <http://homepage2.nifty.com/icas/kawanohi/>

キツネノカミソリ移植作業
樹の名付けウォークキング
(活動に関するお問い合わせ先)
不老川流域川づくり市民の会
相馬氏宅：042-965-1741

ホタルの学習会
(活動に関するお問い合わせ先)
砂川堀流域川づくり連絡会
永石氏：090-4703-7927

北川かつばウォーク
(活動に関するお問い合わせ先)
北川かつばの会
三島氏宅：042-391-2365

記載活動の各問合せ先

川の日ワークショップ発表
清瀬せせらぎ公園
(活動に関するお問い合わせ先)
かわづくり・清瀬の会
神沢氏宅：042-491-2348

白子川源流を歩く
(活動に関するお問い合わせ先)
白子川の湧水と自然を守る市民の会
須貝氏宅：048-464-5545

落合川 川あそび
(活動に関するお問い合わせ先)
ホトケドジョウを守る会
菅谷氏宅：042-472-0882

黒目川流域

7月21日-22日 ワクワク川あそび(落合川)

落合川のワクワク川まつりが、今年から前夜祭も催され、さらに活気に包まれたなかで行われました。

前夜祭(21日)では、野外での映画上映会が開かれ「リボンの騎士」と「鉄腕アトム」を子どもも大人も楽しみました。

22日の川あそびは、夏空の下、元気に行われました。川掃除のあと、ミズガキ講座で魚のとり方を子どもたちは覚えました。また、今年は市

民による公民館自主企画も同時開催され、大人も安全な川遊び方や魚のとり方を学ぶ講習会がありました。

カヌー遊びや、ゴムボート乗りや一本橋渡りなどいろいろな遊びが準備されていました。普段は水量や安全性から、普段はなかなか川に近付けないのですが、この日は子どもたちの笑い声が絶えませんでした。

写真右：川あそびの光景。竹で作られた一本橋渡りに挑戦中！



白子川流域

6月17日 白子川の源流を歩く 白子川の湧水と自然を守る市民の会発足会

板橋区、練馬区、和光市にまたがる白子川流域の懇談会が正式に立ち上げられました。

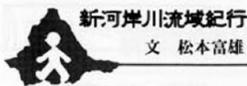
その発足会と白子川の源流(練馬区)を歩くイベントが調査もかねて行われました。白子川の水量は、湧水に支えられています。源流部にも湧水が多く、井頭公園として保全されています。そこから川へおこることで、子どもたちも魚とりを楽

しんでいました。ホトケドジョウがたくさん棲んでおり、川底から湧水の出ている様子も見えました。

下流へ行くに従って、川へ降りられない構造になっていきます。また河床が土からコンクリート変わる境目のある地点では、川の姿の違いが一目瞭然と分かりました。川も呼吸をしているように感じられました。今後の市民活動も期待されます。



写真上：井頭公園での散策の様子です。白子川の源流部でもあり、川へ下りられる貴重な場所です。ホトケドジョウの稚魚がたくさん確認できました。



歩く見る聞く

シリーズ第1回 新河岸川 本川編

出典*1 写真はいずれも、第8回特別展『新河岸川舟運の
福岡・古市場河上』上福岡市立民俗資料館の資料集

新河岸川概観

昭和40年代から50年代前半のころ新河岸川を上流から下流まで訪ね歩き、たくさんの人から川との暮らしを大切に、川に敬意の念を抱いてきたころの話をよく聞くことができた。20年以上を経た今、あの時の人々には、再び会うことはできないが、あときの語る言葉やそのくせさは今も生き生きとよみがえってくる。彼らの新河岸川との付き合い方は、これからの私たちが新河岸川とのつきあい方や新河岸川と共に暮らすためのたくさんのヒントが潜んでいる。参考になればと思い文字にしてみた。まずは今回は新河岸川本流で歩き見て聞いた、いくつか話を紹介しておこう。



水源は入間川だ



昭和62年3月 川越市新河岸川水源
伊佐沼 (吉岡茂氏撮影) 出典*1

新河岸川の水源地は赤間川の崖の湧き水とか。しかし・・・

・確かにこの辺り(狭山市瀬笹園)には崖から湧き水があったが、高台が開発され枯れちゃったね。でも、湧き水はそんなに量は多くなかった。赤間川は、ほとんどが入間川から田んぼの引いた水が落ちてる。水田を潤して、それから新河岸の舟の役に立つ。むだがねえ。(狭山市・明治33年生男性)

伊佐沼は舟運のため新河岸川に流した水源。さて、この沼の水は・・・

・伊佐沼の水は元は荒川に流れていたそうですよ。そして、その水源は荒川の上流の入間川から引いてます。この辺りの田んぼには伊佐沼の水は欠かせません。新河岸川にとっての大事な水ですね。伊佐沼は昔はこの倍くらいあったんですよ。(川越市・明治31年生女性)

中流域の魚取りや水遊び

魚取りや水遊びはよくやったもんだ・・・

- ・川岸は今と違って土だったから、その岸に穴掘ってよくウナギがいたね。鍵の手杖に鉄をまげてウナギかきつてのをつくて、うなぎの巣穴に差し込んで回すとウナギがからんでとれた。(朝霞・大正1年生・男)
- ・マルタって魚が、藤の花が咲く頃になると上ってきた。腹が赤くなって、祝いの魚にいいってね。春祈禱(はるまつり)には必ず祝いに膳につけたね。(宗岡・明治44年生・男)
- ・五月の節句が終わると、節句品を製造して高いしているものにとっては一息できる。仲間から声がかかって、内間木当たりで船遊びしたね。鯉だの魚も多かったから、それを餌にね。(三芳・大正3年・男)
- ・鮎をたまについたね。なんでも鮎放流したことあったらしい。ハゼもよく上ってきたね。やっぱり川が短いから、いろんな魚がいたね。ハゼは秋の後半頃が一番つれたね。(志木・大正3年・男)
- ・昔は、水が多かったし、こんなに橋から見ても川面がはなれてなかったよ。だからこの橋(養老橋)からよく飛び込んだね。河川改修で、今飛び込んだらそこに頭ぶつけちゃうね。(上福岡市・明治32年・男)

河岸場と舟運

心の中には、櫓の響きや川面に浮かぶ舟の姿が残っていた・・・

- ・早船が通ると、川から櫓の音が聞こえてくる。朝の時計はいらなかった。(富士見市・明40生・女)
- ・のぼり舟は引又河岸までだ。上流へは両岸から川人足が綱で引っ張った。(富士見市・明35生・男)
- ・船頭歌かい？船頭さんが客船でうたったてるのを岸で聞いたね。文句はわからないが、アイノノトキ テ ヨサガリかって含みの手は覚えてるね。(富士見市・明29生・女)
- ・ここの人はみんな三味線弾くよ。昔浅草の師匠さんにおしえてもらったって女将さんが近くに住んでいてね。その人から私の師匠さんが手ほどき受けたそう。(富士見市・明治44年生・女)
- ・東京からの情報は速く入ったね。そりゃそうさ。川舟が伝えてくれる。(富士見市・明治38年生・男)
- ・昔は水量があった。今より3メートルも上だった。水量が少なくなったのは河川改修さ。昔は九十九曲がりっていいね。新河岸川は蛇行が激しかった。流れ難いから水が豊富だった。それに洪水の時を考えて、川底を深くしちまった。どうも川が遠くなくなった。(上福岡市・明治32年・男)

【高瀬舟】大正初期 宗岡付近
(写真提供 内田太郎氏) 出典*1



洪水

洪水は困るが、川の恵み、田も肥える

(中流域で聞いたことのみ)

- ・洪水の時はたいへんだった。新河岸川も溢れるし、荒川も大増水だ。このあたりは10年に1回くらい、いやひどいときには何年か続けて水浸しになることがあるよ。でも、そりゃ仕方ないよね。洪水のあるところに暮らし恩恵を受けているからね。田んぼの土は肥える。エゴミっていいね。川が運んできたドロやゴミが溜まるころは、肥料はいらないうい、いい田んぼだよ。魚だって、嵐の後は田の用水にうじゃうじゃ逃げ込んできた。大漁だ。(内間木・明治29年・男)
- ・大事なもんは水塚に納めてあるから大丈夫さ。人間は川に生かされているんだから、川にさからったって諦めないと思うんだがね。最近、低いところに住宅が増えているけれど、水がたつて騒ぐが、とんでもない話さ。もともと水がでるところに家をつつたんだから、でるのは当たり前だね。要だね。なんか考え方っていうのか、暮らし方っていうのか、やっぱり自然の神様の力もって知らなきゃね。(宗岡・明治33年・男)
- ・洪水の時には、ちょっと川の流りがゆるむような、そう橋の橋桁みたいところ、ここを綱で探ると、いや魚がすごくいるんだ。(志木・明治35年・男)
- ・昔は川の水が田んぼにもきちんとして流れてきたから田んぼじゃ稲魚がいっぱい育ったよ。ナマズなんか小さいのが、そうお玉杓子みたいなのが田んぼにはいっぱいいたんだがね。(南畑・明治29年・男)

花川戸界隈の話

思い出下町、川は下町の暮らしの中を流れていった

- ・荷揚げは江戸が終わりに着かない。入間牛蒡が関西で有名なのはさらに船で大阪に運ばれたからさ。(浅草・明治29年生・男)
- ・江戸は火事が多いから、火事の後は木材が運ばれた。荷揚げされた木材が街を通り抜けていくと、活気ついたね。(浅草・明治33年生・男)
- ・さつまいもも船で運ばれた。川越いもで一旗揚げた家もある。舟ののりようかんは、新河岸川がつくった江戸の名物だよ。(上野・明治40年生・女)
- ・嵐が過ぎて二から三日経つと、大川(隅田川)がぐんぐん水かさが増してくる。ただただ黙々と、不気味だったね。いつもは川遊びなんかして楽しんだが、その時は川は怖いって思ったね。(岩淵・明治41年生・男)
- ・昔は、新河岸川の土手に沿って、浅草まで初参りにきた人も多かった。だが目的地は初参りだけじゃなかったね。吉原あたりにもお宮があったよだよ。(東横・明治31年・男)
- ・オリンピックの頃は川と言うよりドブだった。今はきれいになったね。でも、まだ汚ねえや。土手の上や河原を散歩出来ても今は空々しいね。昔は、川にドブンと飛び込んだり、魚取って甘露煮こさえるか、ジミとりして深川飯つくるかなんて出来た。(浅草・明治33年・男)





新河岸川流域 関連機関からのお知らせ

柳瀬川流域水循環シンポジウム

テーマ 望ましい流域像に向けた市民と行政の連携と協働

日時：平成13年7月8日(土) 午前11時～午後5時

場所：所沢市立並木小学校

■基調講演

講師：恵 小百合氏

江戸川大学社会学部環境情報学教授

川を守るためには、生物の保全だけではなく、絶滅の危機に瀕している川で遊ぶ子どもたち「ミズガキ」を守り育てることが必要です。子どもが遊んでいた川やその場所の保全を、流域全体で考えたり、上流域の木材を学校の机や椅子に使用し、日々の生活の中で流域というつながりを感性で理解していくことを育むために、具体的なものの循環で示していく方法も考えられます。こうした取組みにおいて、今後は行政機関の立場を越えた、NPOの役割に大きな期待が寄せられます。

■基調講演

講師：虫明 功臣氏(ご欠席の為、代理：泊宏荒川下流工事事務所所長)

健全な水循環系を取り戻すためには人間と水循環系との好ましい関係を作り出す必要があります。そのためには流域内の市民・事業者・行政の連携からなる流域水マネジメントの考え方が重要となります。それには必要に応じた実施計画の見直しなど、幾つかのプロセスも必要となります。

■アクアオリエンテーション

常設展示や工作教室(紙すき教室、ガーデニング教室)、クイズDEあそびなど、野外の催しも行われました。

ガーデニング教室では、初めてガーデニングに挑戦する方々も多く、クイズコーナーでは、元気な子どもたちの声も聞かれ、楽しいイベントとなりました。

■ワークショップ

① 雨を大地に還そう

進行役：忌部正博氏

雨水貯留浸透マスを普及させるためにはどうしたらいいか?という問題提起から、設置の補助制度やPRの充実、また個人の雨水に対する責任の必要性などの意見が出されました。

② 川に豊かな水量を取り戻そう

進行役：宮本善和氏

流域全体を水源にしようという提案と伴に、人工的に川の水量を増やすことに関する賛否が活発に話し合われました。

③ みどりを守り育てよう

進行役：永石文明氏

水循環を考える上で重要な緑地の保全方策や都市計画の見直し、小さな緑をつなぎ公有地へすることなど具体的な提案も出されました。

④ 水田からの提案

進行役：毛利将範氏

現状の課題や水田の価値を考え、市街地の中にある保水機能をもつ田んぼの環境保全策を具体的な内容も含めて提案されました。



写真上：ガーデニング教室の様子

詳しくは、

国土交通省荒川下流工事事務所
調査課までお問い合わせ下さい。

住所 東京都北区志茂 5-41-1

TEL 03-3902-3220

FAX 03-3902-2346



写真上下：ワークショップの様子



■パネルディスカッション

コーディネーター：松下潤氏

(芝浦工業大学システム工学部教授)

パネリスト：

忌部正博氏(社団法人水貯留浸透技術協会)

宮本善和氏(北川かっぱの会)

永石文明氏(杉川堤流域川づくり懇談会)

毛利将範氏(エコシティ志木)

舛原邦明氏(東京都建設局河川部計画課)

篠塚正行氏(埼玉県新河岸川総合治水事務所)

各ワークショップの報告とともに、会場から意見や提案などが出されました。今後、水循環を考える上で、市民と行政の連携・協力の必要性が確認されました。



写真上：クイズに挑戦中の子どもたち

新河岸川流域川づくり連絡会 報告

平成13年度 第1回～第2回

新河岸川流域川づくり連絡会とは?

国土交通省荒川下流工事事務所と市民の方々との情報交換の場として定期的に開催しています。参加を希望される方や、詳しく内容につきましては、荒川下流工事事務所または新所沢事務所へお問い合わせ下さい。

(開催場所) 新所沢事務所 本誌P8参照
(お問合せ) 新所沢事務所 または、
新河岸川流域川づくり連絡会事務局
国土交通省 荒川下流工事事務所 調査課
TEL 03-3902-3220 FAX 03-3902-2346

第1回 平成13年 4月25日

1. 新所沢事務所の運営について

新所沢事務所を新河岸川の情報拠点とするためには、書籍や関係パンフレットなど最新の情報が入手出来るようにしてもらいたいという要望が出されました。

事務局としては、今後図書室の充実やパンフレットの整理などを行っていく予定です。

2. 新河岸川総合治水展開について

現在、新河岸川流域では河川整備への流域住民の参画を図りながら様々な取り組みがなされています。新河岸川流域川づくり連絡会では勉強会や新河岸川流域フォーラムなどのイベントを開催し、年に6回新河岸川流域しんぶん「里川」も発行しています。こうした取り組みについて、次のような意見が出されました。

- ・今期のスケジュールを早期に話し合い、学習会や流域フォーラムの内容を早めに検討してほしい。
- ・新河岸川流域しんぶん「里川」の送付は、公民館や市役所の窓口など多くの方に見ていただけるように工夫し、学校に配布する場合は配布部数を増やした方がいいのではないかと。
- ・各支川の活動スケジュールを次回の「里川」に掲載し多くの方にとっていただきたい。

第2回 平成13年 5月14日

1. 昨年度の新河岸川流域フォーラムの反省点について

1) 準備会について

- ・昨年度は押し迫った時期に準備会を開催したため、懇談会メンバーの負担が大きかった。今年度は早い時期から準備会を立ち上げる必要がある。

2) フォーラムのテーマ、選考について

- ・アンケート回収率が低く、結果を分析できなかったことが残念である。速記録の中に、今後の方向性を示すキーワードがあるので、それを参考に今年度のフォーラムの方向性を検討するべきである。
- ・新たに「環境教育」という視点を取り入れたことは良かった。
- ・「総合学習」、「環境学習」というテーマでフォーラムを継続することは難しい。継続させるためには、「まちづくり」という視点を取り入れることが有効である。
- ・市民が全てを担うのは無理があるのでコーディネーターが必要である。

3) その他

- ・どの地域からの参加者が多かったかを考慮して、次の開催候補地を選定することが考えられる。
- ・川づくり連絡会の位置付けを明確にした上で、フォーラムをどうするかを考える必要がある。
- ・フォーラムの反省点を次期に引き継ぐためにも、フォーラム終了後に反省会を開く必要がある。

2. 今年の活動方針について

- ・フォーラムには行政関係者が多数参加したが、連絡会には参加していない。行政関係者の参加を促すことは以前からの課題である。
- ・企業を巻き込んだ活動展開が求められる。

(2. 今年の活動方針について続き)

- ・新河岸川流域に関する情報が新所沢事務所に集まってくるようにしたい。
- ・新河岸川流域でリバーマスター制度を検討することも考えられる。
- 3. 里川しんぶんの発行について
- ・養成講座等の紹介など、情報提供して欲しい。

4. 決定事項

- ・懇談会メンバー及び行政関係者にフォーラムに関するアンケート調査を実施する。
- ・次回日程についても、懇談会メンバーにアンケート調査を行う。

第3回 6月18日(水)の議事概要は次号でお伝え致します。

ホームページでは、第3回 議事概要を公開しております。

<http://www5.ocn.ne.jp/~singsasi/meeting.html>

第4回 新河岸川流域川づくり連絡会は、7月25日(水)です。

第5回以降の日程は未定ですので、事務局または新所沢事務所へお問い合わせ下さい。

Information

「里川しんぶん」掲載情報を大募集します!

粗品をプレゼント!

『里川しんぶん』には、できるだけ多くの新河岸川流域に関する情報を掲載していきたいと思っています。そこで、みなさまから右記のような内容に関する情報提供、または『里川しんぶん』に対するご意見を募集します。

情報やご意見をお寄せ頂いた方には、粗品をさしあげます。身近な情報や、みなさんの思いをはがき、お手紙、FAXまたはEメールで下記までお寄せ下さい。お待ちしております。

宛先 ☎ 359-0043 埼玉県所沢市弥生町2996-6山ロビル1F
新河岸川流域川づくり連絡会 新所沢事務所
TEL/FAX 042-994-3212
E-mail singasi@vesta.ocn.ne.jp

こんな発見があったよ



○月○日に、イベントをしました

こんな企画があったらいいなあ!



新所沢事務所通信

新所沢事務所を、ぜひご利用下さい!

新河岸川流域の様々な活動拠点として、『新河岸川流域新所沢事務所』を開設しています。当所は、市民、市民団体と行政とのパートナーシップの構築とともに、よりよく新河岸川流域を理解して頂くことを目的としています。

会議での使用はもちろん、新河岸川流域や水循環に関する資料を揃えています。お探しになっている資料、書籍がありましたら、新所沢事務所へ一度、お問い合わせ下さい。今後も情報を広く収集し、整備していきます。



開館時間

月・水・金曜日 午後1時～午後5時
土・日曜日・祝日 午前10時～午後5時
火・木曜日 休館
8月臨時休館日 8月13日(月)～19日(日)

ご使用になる場合は、開館時間の変更も可能です。ご利用の方は新所沢事務所までご連絡下さい。TEL/FAX 042-994-3212

案内地図



「新所沢事務所」の案内図です。

事務局から

いよいよ川あそびの季節となりました。今年の2月に行われました「新河岸川流域フォーラム」では、環境教育として、また地域の連携を目指した安全な川あそびに向けての準備や体制、プログラムについて様々な提案が出されました。夏はそれらの提案を実行へ移す、絶好の機会です。各地での様子を里川でもお伝えしたいと思います。

また、ホームページでもフォーラムの報告や「里川しんぶんVOL.12」の内容と、新河岸川流域川づくり連絡会の報告などを載せていますので併せてご覧下さい。

ホームページアドレス <http://www5.ocn.ne.jp/~singasi/index.html>

